



ヤングコーナー

冬のオススメ本紹介



YA担当より

寒い季節がやってきましたね。こんな寒い日には、お家でまったりと読書をしながらか過すのもいいですね。ヤングコーナーには他にもさまざまな分野の本を取りそろえているので、ぜひ手にとってみてください。

① 『ピロードのうさぎ』

マージェリィ・W.ピアンコ／原作
酒井 駒子／絵・抄訳
フロンズ新社
YA書架 Eサ



クリスマスにぼうやのプレゼントとしてやってきた、ピロードでできたうさぎ。最初のうちは、ぼうやは大喜びで、なでたりだっこしたりはなしかけたりしていました。しかし、新しいプレゼントをもらおうと、すっかりうさぎのことは忘れてしまい、うさぎは子ども部屋のすみっこでくらすようになります。

ウマのおもちゃがうさぎにやさしく話しかけます。「ここから たいせつに だいじにおもわれた おもちゃは ほんとうのものになる。」

その後、あるきっかけでうさぎはぼうやと一緒に過ごす時間が多くなります。ぼうやはうさぎのことが大好き。うさぎもぼうやのことがとっても大切。でも、一緒に過ごすうちにポロポロになったうさぎはどうとう…。

みなさんにも、大切にしていたおもちゃはありますか？



② 『地球以外に生命を宿す天体はあるのだろうか？』

佐々木 貴教／著
岩波書店
YA書架 445サ



宇宙人は本当にいるのだろうか？ 皆さんも、一度はこんなふうに思ったことがあるのではないのでしょうか。

この本を読めば、宇宙研究の最前線が分かります。地球に似た環境には生命が存在する可能性が高いはず、という仮定のもと、現在も様々な惑星の研究が行われています。調査によると、火星をはじめとする太陽系の惑星や衛星の中には、氷に覆われたものや、水が噴き出しているものもあるといひます。また、ケプラー宇宙望遠鏡の観測結果によると、太陽系外には地球型惑星とよばれるものが無数に存在するそうです。

もしかすると近い将来、地球外生命体が見つかるかも…というロマンのつまった一冊です。



③ 『モマの火星探検記』 毛利 衛／著 講談社 YA書架 913モ



1992年と2000年に日本人科学者として初めてスペースシャトルに乗って宇宙に行った毛利衛さんによるSF小説です。

物語は、2055年、初老のモマ（人類で初めて火星に行った宇宙飛行士の英雄）が2020年に宇宙飛行士の訓練のために月へ向かう頃の回想から始まります。

2022年の今（この本が出版されたのが2009年）、毛利さんが思い描いた未来と現在の違い、どのくらい近づいているか、というのを考えながら読むのも楽しいと思います。

若いモマが、火星でどんな困難に会い、仲間とのりこえるのか、一緒に立ち向かいましょう。



④ 『チェスターとガス』

ケイミー・マガヴァン／作
西本 かおる／訳
小峰書店
YA書架 933マ



優秀な盲導犬を母に持つチェスターは、きょうだい達と立派な補助犬となることを目標に訓練に励んでいましたが、大きな音が苦手という理由で最終テストに落ちてしまいます。

そして、自閉症の少年ガスが暮らす家にペットとして迎え入れられます。学校で嫌な目にあったり、トラブルに遭ったりするガスを、チェスターは見守りながら懸命に支えようとします。

言葉は通じないけれど、一緒に過ごすうちに少しずつガスと心を通わせていきます。

心優しい犬の視点で物語が紡がれていて、チェスターのガスの役に立ちたい・助けたいという思いに心打たれます。



YAとは…ヤングアダルトの略で、「子どもでも大人でもない世代」のこと。13歳から19歳くらいが主な対象です。

